# アド・キャスト News10月号 Vol. 118

DOMO! アド・キャスト 2020/10/2

## ■有効求人倍率（静岡労働局 季節調整値改定値）

**県内の8月の有効求人倍率は0.88倍。**

リーマンショックは2008年9月

有効求人倍率の推移(静岡県・全国) ※2009年8月は0.42倍(全国)であった

| 区分 | 2007年平均 | 2008年平均 | 2009年平均 | 2010年平均 | 2011年12月 | 2012年12月 | 2013年11月 | 2014年12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 静岡県 | 1.20 | 0.87 | 0.40 | 0.52 | 0.68 | 0.73 | 0.91 | 1.14 |
| 全国 | 1.02 | 0.77 | 0.45 | 0.56 | 0.71 | 0.82 | 1.00 | 1.14 |

| 区分 | 2015年12月 | 2016年12月 | 2017年12月 | 2018年12月 | 2019年12月 | 2020年6月 | 2020年7月 | 2020年8月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 静岡県 | 1.25 | 1.42 | 1.61 | 1.65 | 1.47 | 0.96 | 0.90 | **0.88** |
| 全国 | 1.27 | 1.43 | 1.59 | 1.63 | 1.57 | 1.11 | 1.08 | **1.04** |

**○静岡労働局が10月2日発表した有効求人倍率(季節調整値)は0.88倍となり、前月を0.02ポイト下回った。**

**→平成25年10月以来、82か月(6年10か月)ぶりに0.8倍台となり、全国値(1.04倍)を17か月連続で下回った。**

・有効求人数(季節調整値)は50,710人(前月比1.0%増)となり、8か月ぶりの増加となった。

・有効求職者数(季節調整値)は57,738人(前月比3.4%増)となり、4か月連続の増加となった。

**＜雇用情勢の概要＞**

**県内の雇用情勢は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にある。**

## ■トピックス

### バイトできない27% 新しい友達ゼロ22% 大学生活に様々な支障(全国大学生協連調査)

コロナ禍が長期化し、大学生にもさまざまな支障がでている。全国大学生協連が7月下旬に実施したアンケート調査によると、アルバイトについて「やりたいが、まだ一度もできていない」と答えたのは回答者全体の27%、「新たなバイト先がみつからない」が8%だった。このほか、31%がコロナ流行以前に比べてバイト収入が減ったと回答した。飲食店や小売店などの休業や営業短縮、人員削除の影響で、バイト需要が減っているのが影響したとみられる。

大学でできた新しい友達も回答者の22%がゼロと答えた。最も多かった回答が「5人未満」の28%、5人以上10人未満も18%と、大学の活動が制約されるなかで友達づくりに苦戦しているのがうかがえる。

(調査結果を基に日本経済新聞社が計算)

### コロナ解雇5万人超に 非正規中心、地方に波及(厚生労働省9月1日発表)

厚生労働省は9月1日、新型コロナウイルス感染拡大に関連する雇用や雇い止めが、8月31日時点で見込みも含めて5万326人になったと明らかにした。政府は雇用調整助成金の日額引き上げなど特例期限を12月末まで延長して対応するが、感染収束の兆しは見えず、非正規労働者を中心に厳しい雇用状況が続く。また14都道府県で1000人を超え、観光や製造業など主産業が打撃を受けた地方に波及していることも浮き彫りになった。

### 生活「苦しい」、40%に増加 県調査(静岡県9月9日発表)

静岡県が9日発表した県政世論調査によると、暮らしが「苦しくなっている」と答えた割合は前年比1.1ポイント増の40.3%だった。理由(複数回答)は「給料や収益が増えない、または減った」が同9.2ポイント増の58.9%だった。

調査は6～7月、県内に住む18歳以上の4000人を対象に実施した。回答者数は56.3%の2250人だった。

苦しくなっている理由では、他に「預貯金が増えない、または減った」(43.2%)、、「税金や保険料の支払いが減らない」(35.8%)も上位を占めた。新型コロナの感染が収束せず、雇用や給与に関する不安につながっているようだ。

日常生活の悩みや不安は76.2%が「感じている」と答えた。前年を3.7ポイント下回るが、高水準で推移している。静岡県を「住みやすいと思う」と回答した人は前年から2.4ポイント増え、90.2%だった。県政に「関心がある」との回答は4.3ポイント増の64.7%と、「関心がない」(29.6%)を上回った。

### 新卒(2021年春の新卒学生)採用「継続」5割切る 県内企業8月時点(就職支援財団調査)

就職支援財団(静岡市)が実施した静岡県内の企業を対象にした調査によると、8月時短で2021年春の新卒学生(大学、院卒)の採用活動を続けている割合が2017年以来3年ぶりに5割を切った。前年同期に比べ5ポイント以上減った。

8月時点での採用募集状況は「現在募集している」が43.5%、「募集していたが終了した」が21.9、「募集していない」は前年同期から6ポイント以上増加して27.9%だった。採用活動の継続率を業種別にみると、製造、建設、サービスの3業種で前年同期を下回った。一方、卸売・小売業では前年同期を10ポイント上回る72.3%が採用活動を続けていた。調査は8月7日～31日に実施し、570社が回答した。

### 解雇・雇い止め6万人 コロナ関連 1ヵ月弱で1万人増(厚生労働省9月23日時点)

新型コロナウイルスの感染拡大に関連した解雇や雇い止めの人数(見込みを含む)が初めて6万人を超えた。厚生労働省によると23日時点で6万439人に達した。8月31日時点で5万人を超えてから、1ヵ月弱で1万人増えた。

厚労省が把握できていない事例もあるため、実際の人数はもっと多いとみられる。4万人から5万人に達したのも約1ヵ月で、毎月1万人ペースで増えている。新型コロナ関連の解雇・雇い止めのうち2万5000人超が非正規労働者という。

11日時点までの業種別の集計では製造業が9000人超で最も多く、宿泊業や小売業、飲食業がそれぞれ7000人を上回った。

労働者派遣業は4000人程度だった。

## コロナ解雇　製造業1万人(厚生労働省)

厚生労働省は9月29日、新型コロナウイルス感染拡大に関連する解雇や雇い止めが、見込みも含めて25日時点で6万923人になったと発表した。業種別では製造業が1万180人と最多で、始めて1万人を突破した。
全体の人数は前週よりも1250人増え、そのうちアルバイトなど非正規労働者が536人だった。
業種別では製造業に続き、飲食業が9906人、小売業が8623人、宿泊業が7837人、労働者派遣業が4559人だった。
都道府県別では東京都が1万5745人で最多だった。大阪府が5483人、愛知県が3313人神奈川県が2728人、北海道が2433人の順で多かった。
全国のハローワークや労働局に相談があった事業所の報告を基に、厚労省が2月から集計している。把握できた範囲に限られているため、実際の解雇者はもっと多いとみられる。